

## 第 1 4 期議案説明書

- ・ 第 1 号議案
- ・ 第 3 号議案

一般社団法人 日本 WPA

## 一般社団法人 日本 WPA 第 14 期（令和 5 年度）事業活動報告（第 1 号議案）

### 1. 事業の概要

「日本 WPA 会員企業の発展」と「日本 WPA 参加のメリット」の提供と、「水なし印刷」と「カーボンオフセット」の印刷市場における普及を目的に、日本 WPA 理事会内に、企画委員会、広報委員会、カーボンオフセット推進委員会、水なし印刷拡販委員会を設置し、日本 WPA の諸活動を一層充実させることができ、会員数・収支状況も安定した実績を残せた。

#### (1) 収支実績

収入は、15,704,019 円で、予算比 904,019 円の増加となり、支出総額は、13,746,629 円、予算比 4,650,061 円減となった。その結果、当期正味財産は、予算比 5,554,080 円の増加となり、来期に繰り越す正味財産期末残高は 16,090,687 円となった。

#### (2) 会員数の増減

期中では、正会員 2 社、協賛会員 1 社の新規加入があったが、退会会員もあり、会員数は、119 社である。

### 2. 個別事業活動報告

(1) 前述の通り、日本 WPA 理事会内に、企画委員会、広報委員会、カーボンオフセット推進委員会、水なし印刷拡販委員会を設置した。

(2) 第 13 期定期総会、及び付帯行事の講演会は、6 月 23 日に新型コロナウイルス感染症の 5 類以降に伴い、対面形式で実施した。

付帯行事として「新キャッチコピー：このポスター、工程まで美しい。」の制作者である長井謙さんの講演を実施した。(株) 文星閣の工場見学を含め参加者は 79 名であった。

#### (3) 各活動項目の具体的内容

①総カーボンオフセット量が、10,000 トンに達した（3 月 15 日）。

日本 WPA のカーボンオフセットは、PGG-CLOUD を使用して CO<sub>2</sub> 量を算出するが、水なし印刷の他に水あり印刷、デジタル印刷でも CO<sub>2</sub> 算出が可能である。年間のカーボンオフセット量は、1362 トンで前年度比 133%と増加している。カーボンオフセットの採用分野では、IR 関連よりも一般の宣伝物（商品・会社案内、カタログ、カレンダーなど）での採用の方が多く、全体の約 40%を占める。パッケージ印刷や封筒の等の事務用品や、社内報での採用も増加している。

- ②新キャッチコピー、『このポスター、工程まで美しい。』に関連した youtube 動画と、Xを用いての広報活動を実施した。
- ③新キャッチコピーのビジュアル優秀作品コンテストを実施し、44 作品の応募があった。最優秀作品賞、準最優秀作品賞、優秀作品賞、理事会賞を選定した。
- ④自治体広報誌での「水なし印刷+カーボンオフセット」の採用、及び自治体や国（国立大学法人含む）発行の印刷物での「水なし印刷+カーボンオフセット」の採用が増加した。
- ⑤2023 年度の個別企業の環境関連報告書の約半数が、水なし印刷を採用しており、過去 4 年間も同様の比率である。
- ⑥脱炭素チャレンジカップ 24 の協賛  
「日本 WPA 最優秀未来へのはばたき賞」を、福島県南会津町環境水道課に贈呈した。南会津町の水道施設の建屋を「木の力」を活用した木質化することで、脱炭素を実現し実績を顕彰した。
- ⑦万博共創チャレンジに参加し、「カーボンオフセット付水なし印刷で脱炭素社会の実現を！」として登録し、活動を広めている。
- ⑧こどもエコクラブ(公益財団法人日本環境協会運営)の全国フェスティバル2024(3月24日開催)をサポートした。こどもエコクラブは、全国で2190団体、92,200人が活動をしている。

## 一般社団法人 日本WPA第15期（令和6年度）事業活動方針（第3号議案）

世界の脱炭素社会化の潮流、気候変動対策や生物多様性の維持など環境保全活動が地球規模での課題になっている。日本WPAは、廃液を出さない、VOCの排出を削減できる水なし印刷を推進することにより、SDGsの個別課題に貢献している。また、長年取り組んできた脱炭素社会の実現に向けての「印刷物でのカーボンオフセット」については、総オフセット量が1万トンを超え、ますます支持を広めている。

さらには、地球環境問題を解決するため、印刷業界だけにとどまらず、地球温暖化防止全国ネットや、公益財団法人日本環境協会（こどもエコクラブ活動）、万博共創チャレンジなどに活動を広めている。

### 1. 基本活動方針

日本WPA理事会内に設けた、企画委員会、広報委員会、カーボンオフセット推進委員会、水なし印刷拡販委員会の4委員会を中心に活動を展開する。

水なし印刷、日本WPAについては、印刷業界内では著名ではあるが、一般消費者

（クライアント）への浸透には、まだ課題があり、広報活動を重視するとともに、脱炭素社会の実現に貢献するためのカーボンオフセットのさらなる拡大を目指す。

カーボンニュートラル印刷の拡大を目指す。

### 2. 個別事業活動方針

（1）YoutubeとXを活用した広報活動（担当：広報委員会）

（水なしカーボンオフセットポスター印刷体験キャンペーン）

ビジネスユーザーに加え、一般の消費者、学生なども対象

（2）日本WPAではメールマガジンで、HPのニュースを配信しているが、登録者数（約1000人）の倍増を目指す。（会員各社のより多くの社員の皆様に日本WPAからの情報が伝わる仕組みづくり）

（企画委員会担当）

（3）カーボンオフセット事業（カーボンニュートラル印刷）の拡大を図る。

①カーボンオフセットへの参加会員数の拡大と各会員でのカーボンオフセット付き印刷の拡大を図る。地方自治体の広報誌での水なし印刷化とカーボンオフセット採用を引き続き推進する。

第14期のオフセット量は、年間1,361トンであったが、早期に年間2,000トンを達成する。

②現在、印刷物のCO<sub>2</sub>排出量算定に使用しているソフトウェアのPGG<sup>®</sup>（Printing Goes Green）をより簡便に使用するための操作マニュアルを作成する。（カーボン・オフセット推進委員会担当）

③水なし印刷拡販委員会を中心に、日本WPA会員数の増加を推進する。

日本WPA入会の動機は、SDGsへの貢献、働き方改革、環境対応など様々であるが、これらに関する情報を積極的に発信していく。

(4) 会員向けイベントの拡充 (企画委員会、カーボン・オフセット推進委員会、水なし印刷拡販委員会 相互で担当)

①勉強会 (営業部門のナレッジ共有、技術情報の共有)

②カーボンオフセット講習会 (営業情報、PGG操作)

③会員工場見学

④環境関連課題に関するセミナー・講演会

(5) 継続事業

①一般社団法人地球温暖化防止全国ネット主催の「脱炭素チャレンジカップ2025」への協賛、及び「日本WPA最優秀未来へのはばたき賞」を選定し、贈呈する。

②財団法人日本環境協会の「こどもエコクラブ」活動のパートナー団体として、サポート活動を実施する。

### 3. 予算

(1) 第15期の会費収入は、第14期並みとし、14,800,000円を計上する。

支出のうち、経常支出の削減を図り、12,304,290円を計上する。

(2) 以下の項目にて第15期経常外支出を計上する (第3号議案)

企画委員会、広報委員会、カーボンオフセット推進委員会に、各々200万円を計上し、個別に、または、共同して事業活動を実施する。

(3) 新キャッチコピービジュアルコンテストの表彰関連費用を経常外で計上する。

(4) 上記により、第15期の事業活動による総支出額は、19,154,290円を計上するが、経常外支出の各事業は、下期中心の支出となるため、未消化分が発生する可能性が高く、未消化額は来期 (第16期) に繰り越すこととする。

(5) 上記により、第15期の正味財産期末残高は、11,736,397円となる。

以上